地理ヲ精密ニ学ハン為地球ヲ周リ十八ケ月
ニて江戸湊ヘ着候處当年当月亥三日
ニ中隠帆ニ候
暦数千八百四十六年八月二十日　ステンビルレ
右之通和蘭語ニ而認メ有之候　大通詞和解仕候
差上候以上
六月十九日　堀達之助

日本地図并浦賀港其外港図富士并長
崎港異国船入居候節船形等総而取出し
写真図等所持

一　当月廿四日夜明七ツ半時頃松平大和守大津陣屋ゟ
遠見いたし候処八ツ半七ツ時頃異国船壱艘鶴ケ崎見候
申ニ付沖合之小田原之方江向ケ走居由領分芦名村浜
船見番所ゟ見当り候ニ付御役船中ゟ申来ニ付早速出
候処右異船ハ当組六ツ時頃出帆房州地方沖ヘ
乗出し候処異船ニ而相掛候得共夜明ニおゐて元
何れへ参候而沖合江乗入候ニ付猿山沖ゟ帆を
立来り候処方角を変し候而又川沖江漕を
船ニ而致し候者并ニ浦沖ニ異国船ニ而見届候
居候中申ニ付帆をのけ候船ゟ三崎湊と見ゆる
沖合ゟ乗出候得共又候何分風向よろしからず
お家団之浜船し来る所を秋谷沖ニ而漕付

ニ御座候処昨廿八日朝船を下し地方を乗廻し相尋
候得共一向見当り不申候猶漕行秋谷村ニ而ハ漁
ニ罷在候節見ル船を見付候而ハ漕付乗廻し候
様ニ而網を打付ケ候ニ付其節川越家之陣屋詰
五人乗組ニ而来候様子尋候処両人ハ不申ニ付早々
速地方ヨリ之様子を承り候得ハ右之通通詞達ニ而御
承り候得ハ去年之船大船江戸へ入津いたし度
存候処小風浪ニ而難船ニ而浦賀へ入津致候様存候得
中へ参り候節ハ江戸へ参候事ニ而も何分ニ付候
申候処ニ而船ニ而中々参り候事ニ而入津のアメリカ船
の掛場所ニ而ハ無之ニ付世話ニ而何分ニ而通
ニ而ハ船を引戻し候事　田丑先達而異船ニ付

子委細承候ハヽ申居候何分沖ニ参り不申候ニ付安全難
火村沖合ニ而乗り捨ニ而御組乗組候ところを卸し通
詞ト同船之者人川越家来両人乗組船ニ而沖合へ差出
城ヶ島沖ニ乗廻し候處ハ夜之時化ニ而大風雨ニ而候
ニ異船ニ乗居候者ハ都而不申下ニ候士官之者居
へ居り候九ツ時頃大筒三放船上ニ而候ニ付候而何事
と存候内通詞達シ申候と忙しく相尋候処
不分候船上ニ而候ヘ上ニ而参遣し候ヘハ船之中ニ而ハ何分
時化ニ而急入津之由当月日本ニ而ハ参不申
出帆帰帆いたし候而乗廻し之者下船いたし候旅
申候由船ニ而大風雨浦賀船八中々骨折いたす
去年中帰し之浦賀へ入津いたし候様ニ而ハ手遠

二ハ番方之船を差出し候ニ付以同小船より
本船え乗付候処船中ニ而呼入候得ハ乗移り候而一同
乗入不申言語も不相通候ニ付筆談を以国名を尋候処
く存候由ニ而両国之絵図出し見せ候得共不相分候而
ヶ崎南之方ニ凡五六里も乗出し一同帰船致し候ニ而一船
三ヶ月程漂流いたし居候処地方へ帰り候ニ付右船
ハ右細いたし候処同所ニ而御ヶ崎沖ニ至り半
沖ニ而右同幸ニ書付相渡船漂着いたし候処右同
石ニ相成右船九死一生之姿ニ而漂流来り候処
り右先ニ至り入津之儀相願候処
日右国より船頭共船へ乗移り候得共
之者共国ニ而候ニ付右之趣申中候処一向

右之趣申来候ニ付此段以下畧

六月
[illegible]
嘉右衛門殿
三郎助

弘化三午年七月廿二日

長崎奉行
浦賀奉行
へ

異国船渡来之節取計方之儀去寅年相達候
趣も有之候処漂流ニ而無余儀薪水食料等乞候
之類漂流之者船中必薪水食物等乞候ハヽ
節と可申候得共とても不及御憐愍